

寝やすくなりた

F J M R

成田から12時間かけてドバイ。2時間のトランジットを経て、リオデジャネイロまで15時間。あと8時間。

今4度目の機内食が来た。寝るに勝るヒマつぶし無し。

いつものまにか夢を見ていることを夢見て、片っ端から「寝やすそうな」邦画を再生しています。近々エミレーツ航空を使用する予定がある、寝やすくなりた

自爆民のお役に立てれば。「ロックバック」短くまとまっ

ていて、寝づらい。「待タイムスリッパ」あれだけ話題になっていたので

ビびっていたけど、寝やすい。長いし。何度も寝た挙句、早速送りして結末だけ観た。

「8番出口」ずっと同じシチュエーションで、寝やすい。

寝やすすぎて最後まで観れず。「蒸発 Into Thin Air」寝づらい。おもしろい。

「ペイビーわるきゅーれ ナイスデイズ」寝づらい。めっちゃおもしろい。

「フロントライン」長くて寝やすい。ストーリーが気にならないので、寝落ちしても惜しくない。あと、ずっと画面が暗くて助かる。

「早乙女カナコの場合は」いかに寝やすい雰囲気だったけど、

分かるゝ寝づれゝで全部観た。終わり方も超寝づらかった。

良かった。エンドロールに自爆VJの名前が出てきた。なぜ？

残るは、「トリリオンゲーム」「女神降臨」「ドクターX」「キムタクの料理のやつ」

「スオミの話しよう」など。どれも寝やすそうだし、帰りの便に取っっておこうか迷い中。

別に、観たいわけじゃない。出来れば着陸の振動で起きたい。移動長い。しんどい。バイバイ

来たるべき美のために

imino

〇元を汚しながら手掴みで激辛ラーメンを食べる白人の

少女、切れ込みの入った石鹼をカッターで削る男の手、次々と階段を駆け落ち、詰められた

ビーズを撒き散らして割れるガラス瓶、それら全てに、全く新しい美が眠っている（！）。

写真や映画が複製技術の発展であつた一方で、ソーシャルメディアというテクノロジーは複製技術の成熟である。ソーシャル

メディアによって消費行為は、複製行為と同一化した（我々はそれをリポストすることによつて鑑賞したことになる）。また、複製テクノロジーの成熟により、個人の消費行為はそのまま生産行為となる。複製行為と同一化

した消費行為は、そのまま消費対象に付加価値を生産する行為でもある。

テレビやラジオといった放送（Broadcast）が文字通り広く（高いところから下に）投げることで情報を複製するのに対し、ネットワーク（Network）では、網の目であるところの私

たちは絶え間なく複製・消費の労働に従事している。

放送メディアにおいては、技術的・規制的制約による寡占状態があり、排他性／非対称性／権威が発生する。

放送とは啓蒙であり、モダニティ



の象徴である。"複製芸術時代の芸術"において

ペンヤミンが唱えた、事物の"いま・ここにある一回性"とそれにより発生する崇高さは、放送メディアの排他性／非

対称性、それに伴う権威と同型であり、彼はメディアという複製技術の擡頭によつてもたらされる人間の感性の変容を世界に

投射したに過ぎないだろう。彼は放送というメディアのもつ形式をノスタルジックに世界に

当て嵌めたのであつて、"アウラ"はテクノロジーによつて喪失したのではなく、テクノロジーに伴つて変容する

近代的人間性のなかで事後的に発見されたのである。

求愛中の孔雀のような極彩色の文字の刻まれたYouTubeのサムネイル。コントラストを

高めるためにだけ嵌め込まれたわざとらしい縁取り。扇情的な文句。芸能人の偽の計報。

排他性も非対称性ももたず、万人に開かれたネットワークの中で、表象はただその強度と複製速度によつて己の領土を

拡大する。

テクノロジーの変容は生活世界の変容であり、人間の感性の変容である。テクノロジーによつて破壊的に変容をつづける

世界と我々の感性のために、新たな美の概念を鑄造する

青年は訴える。潮流の主流派は我々だ！

べきた。眼前に広がり続けるゴミの山こそが現代の美の条件であり、我々は、その中で表象が放つ

光のために、崇高に替わる新たな感嘆の言葉を創造しなくてはならないだろう。

ロックンロールを始めよう、何度でも

イセノ

「どうも、どこかで会いましたか？インターネットとロックンロールに中指の関節奪われて

幾許。首を縦に振る筋肉ならばママの子宮に忘れてきたまま。破壊・自滅・自爆の文筆の天才

こと石左と申します。ども！今回は同志ササキ高松に

「先輩のロックンロール、マジなのか見せてもらっても、いいですか？」と叩まれ脅されミザリー（1990）よろしく角材と

釘バットを持った二人に軟禁される形でこの文章を書いております。ササキ、殴ってもいいけどヘルメットは貸してね。

「ロックンロールを始めよう」年末に出た自爆宣言「大衆に次ぐ」その第一曲、第一声。

合理・コスバ・ポリコレ・積立NISA。右向け右で国立出てスマートに生きよと誰も疑わず、

思考停止で前走者の後を追いつつ、そのまま激流に飛び込み集団自殺をするレミングのような

俺たちクソの大衆に「どうせ死ぬなら人と違う死に方をしようぜ」とエレキギターを片手に

資本主義の音楽洞穴に突撃を促す無責任な独裁者の宣誓。

ササキ、お前これ聴いてる子にまーちゃんや守るべきハムスターとかいんだぞ。

ロックとは、つまるところ反発。黙殺される少数派の叫び。多数派であるところの大衆つてやつ

と爆音で響く自殺教唆の歌声。統計とか取つたらポップ聴いてるやつとロック掻き鳴らしてるやつ

の平均寿命とか幸福指数つて半分ぐらいになるだろ。

体感そう。俺がまだ生きてるの

つてただの大吉か大凶でしかない。マジで結構死んだなあ！

同世代。生きててハズいから殺してみよう！さっさとよ！これをツラツラ読んでるやつ

も他人事じやないぞお前。長生きする奴つてのは吉野家の3倍する値段のコーヒー飲みながら村上春樹の中身のねえ

ガラス工芸の如く流麗なセンテンスに涙して肉の上にウニが載つた意味不明な寿司をデザイナーズマンションの便器に流通する

のを人生だと疑わないでくれる。TOEIC999点のバカ。こんなインディーズバンドが

自費で刷つたペラ紙を後生ありがたく読んでる時点で自爆の才能がある。残念だったな、

おめーも俺たちバカと同じこつち側だバカめ！

「思い出になつて綺麗になるなら傷口のまま傷んでいよう

悲しみの果てに忘れるならそのままずっと覚えておこう」

ケロイドの唄

この有様だから俺こと石左も燃えて爛れケロイドになつて

残っていない。酒を飲めないササキの肌はまだガキのそれで白く美しく、でも平均したガキ

のように透ける無傷の肌とは違つて人と違うせいで跡になつた傷が「大衆に告ぐ」の中で赤く光っている。

「このままバンドを続けてもいつかあの子は賢いやつを夫にして子供を産んでチャリ

漕いでスーパールに行くんだ」

君はロックしか聴けない

もう元に戻らない赤い肌を誇れるその心がロックスターに挑む

唯一のチケツト。これらからきたる音楽業とか生活や経済とかいうクソみたいにロマンの

ねえ金とコネと妥協と恭順の現実

に拷問を受ける覚悟。それでも首を縦に振らない覚悟。それでも中指を負けない覚悟。死め覚悟。真つ赤なそれを

リアルバムとして自爆は大衆に告ぐ。おしい良いチャレンジャー来たじゃん、ワクワクするぜ。

一説によれば俺たちのこの

ロックつてやつは「天邪鬼の遺伝子」という社会生物としての役割らしい。たとえ話をしよう。

太古、村の泉が枯れ始めたところに村長はこう言う

「いつか泉は復活する、10年前も枯れそうになつた

ことがあつたらしい。ここで泉の復活を待とう」

まあ老人はそういう、保留。安牌。責任もあるし長年の経験で痛みを覚えてリスクを嫌う。そこで俺たちのDNAの先祖

さまはこう叫ぶ。「いや、そんな運否天賦には任せらんねえ、熊や虎の出る危険な森を超えて新しい泉を探そう！」

したら自爆の4人と輪になつて総理大臣みてーなツラのジジイをリンチしているところまで想像つく。この日和見のカスがよ！ため込んでる干し肉

寄越せくたばれや！！

それで、9割方俺たちは死ぬ。熊に八つ裂きにされハラワタは

虎や狐のオヤツになるだろう。

しかし、泉が本当に枯れていたら？村長だけ秘密の泉を秘匿していたら？そう全滅だ。

だから多数派にアンチポーズを取れる人間が人類という総体のために必要不可欠。DNAガチャ

地獄のSSR。現代でいうところのADHDつてやつか。ウケる。残念だったな、おめーも俺たち

バカと同じこつち側だバカめ！アゲイン！

「や、やつぱり熊つてクソこえーし枯れそうな泉を吸つて耐えよう……」

ササキが、自爆がこんな泣き言言い出したら俺はもうその場で叩つ斬るね。錆びたなど。引

けば老いるし臆せば死ぬ。刃こぼれしたら研ぎなせ、錆びたら

炉でもう一度熱せ。俺も何度錆びても何度でも白刃を湛えるよ。これまでもそうしてきた。

自爆も、スタッフのみんなも、これを読んでるお前も、そうしろ。各々のロックという刃物は

みんな違う形で良い。自爆の4人の赤い剣は俺の好きな形をしてる。俺の刀もそう。

お前の刀も見てみたい。半端に曲がつてナマクラになつてんならいつそ全部溶かして

スマホの部品とかにでもなれ。用はねえ。幸せにな。

断末魔の独占体にトドメさせ！

ウノツカ

全国の斗争学生・労働者・そして本日の集会に結集したすべての革命的同志諸君！

わが同盟の切り開いた25年

芸術闘争は偉大な成果を勝ちとり怒涛の進撃をきりひらいた。

12月決戦の頂点として行われた「自爆宣言」の猛攻撃で

独占体に対する総反抗の大方針を全党的、全社会的に定着させ、26年前期芸術闘争で総反抗

情勢のいつその成熟をきりひらき、勝利の大勢をほぼ確定したわれわれは、26年芸術

闘争の完遂によつて、勝利の大勢をさらに打ち固めるとともに、最後の勝利、独占体

完全打倒にむかつて真に新たな階梯を切り開かなければならないのである。独占体ブルジョア

ジーは、反革命の脳天にかれらを震撼させるような猛爆撃のラッシュがおしよせることを覚悟しなくてはならない。

いまやわが戦略的総反抗は、革命的

大衆の一大決起をうながしながら圧倒的物質化を勝ち取つており、力関係の革命的

変動は、もはや何ものによつてもくつがえすことができないまでに確固たるものとして

がつつりとうち固められた。他方独占体ブルジョアジーは、われわれの戦略的総反抗の前に

完全にふるええあがり圧倒され、戦局を冷静に見る気力さえ失い、公然と断末魔の悲鳴を上げる

までにうちのめされてしまつてゐる。人民を墮落せしめるような潮流を前端的に売り出し大衆

ながら支離滅裂な言葉を吐きおろしている独占体のぶざまな姿を見よ！

われわれのあまりに的確な鉄槌を反革命中枢に集中砲火

された彼らは、自らのムーヴメントを牽引してきた主流派

としてのメンツなどかなぐり捨てて、「なんとなくエモい

邦ロック」「推し」という観念的かつ退廃的な消費の産物である「アイドル」をかっぎ

上げるという愚行で自らを

あざむくのに必死なのである。そしてただただ、われわれとの闘争から逃亡するためだけに、

絶望的な悪あがきを重ねているのだ。反革命独占ブルジョアジーのこの我々との一大決戦に

関するいかなる展望も、確信も

うせ果てているが故にくり返される自殺的・自滅的暴挙には、

われわれはより強烈な革命的せん滅戦をもつてこたえるだろう！

2024年、革命的芸術闘争が猛烈と火蓋を切つて以来、主流派としての優位性に慢心

した反革命分子に、つぎつぎと正義の赤色テロルの嵐をあびせ、とことん攻撃的な、集中的砲火

をたたきつけ息もつかせぬ猛攻撃を開始する中でわれわれは、闘争によつて闘争を学び、闘争のなかで闘争の態勢をつくりあげるといふ革命闘争の原則を身につけるとともに、

反革命完全打倒の展望をがつつりとうち固めてきた。また、そのことをとおして、革命への最短コース、階級闘争の革命的・内乱的・武装的な

発展の前衛党としての階級的任務をしつかりとにぎりしめたのである。

いまや、われわれの任務は明確である。

第一に、活字文化圏での圧勝にふまえ、反革命中枢・中枢機関の特権的階級性を徹底的に解体しつくすことである。

第二に残存邦ロック主力・敗残グループを壊滅させなければならぬ。最後の一匹までせん滅しつくすことである。

第三にあらゆる革命的分子をつが同盟の部隊に動員し広大な共同戦線を構築し、高揚する大衆の意識と固く結合することである。

第四にもつて、われわれ大衆の独裁権力の行使によってあらゆる差別・抑圧・不条理の根源である反革命独占ブルジョアジーの鉄鎖を引きちぎる。

この革命的・不可避の歴史的必然性を前に、われわれの戦線に合流しないという選択肢はもはや存在しない。

26年芸術闘争の革命的爆発、独占体解体の総路線をはつきりと掲げ、わが同盟とともに猛然と戦い抜こうではありませんか！邦ロック粉碎！ロックンロール奪還せよ！

また、わが同盟の革命的物販スペースでは、より本格的な武装蜂起に備え、ヘルメットを常に販売している。

そして生きた階級闘争の教科書、マルクス・レーニン、その他革命的書籍も販売中だ。また原典の学習会も行っているので理論闘争の高揚を勝ち取りたい諸君はぜひ、積極的な決起を求める。

ヘルメット ¥5,000

書籍 ¥500

理論学習希望はこちら
XJ@unotsuka

疑うモノクロ

高松名人

ひとつまみの塩とグルテンフリーの愛情、暴力のビタミン、あの日鍋を囲みながら見たドラマの「二人なら生きていける」という言葉が一人を奪って行った。

なにも傷つけないわけじゃない。ただ許されたい。その隙間に巻尺が転がっていた。

どうでも良くなった俺は、夜中に街を飛び出した。傘を持たされることもなく。だから雨に濡れてしまった。こうなることが決まっていたように、ぬかるんだ足元が、首筋に鋭利な冷たさを突きつけた。肌の

ように張り付いたワイシャツが剥がれて、襟元から一房ののろんとした何色ともつかないゲルが溢れた。

それをひた隠すこともいつしか難しくなってきた。自分とたった二人しか乗っていない始発車両の端に座る髪の長い男に、すべてをあげすけにしたくなかった。

きつと彼も、自分と同じだと思えたのだ。彼がつけている豚と骸骨のネックレスが、がらんとした車内の隙間をぬくる駆け抜けてきたからだ。

手すりのぬめりが自分の手汗によるものだ気づいた。誰もみつめないでほしい。もう怪我はしたくないのだ。ガラガラと転がってきたそれを巻き取った瞬間、意識はホームのベンチに崩れていた。

もうこのまま何も食わずにくたばりたかった。きつと、社会のせいでもなく誰に怒られたわけでもなく、だが紛れもなく死にたいと思うのは良心の呵責によるものだと、地を這う視界に映った。

正義や論理が内面化された出来のいい子供には、土を耕し水を

やり、枯れた葉を摘み取り、愛でる時間がないのだと悟った。もうまもなく現実がやってくる。拝金主義者の型取りに使われ捨てられることにはもう慣れている。

せめて、ひらりと

革新保守のすゝめ

佐藤凌駕

「機嫌よう。佐藤凌駕と申します。

先ずこの「人民会報」というこの誌面上に於いて、政治的に保守的な立場にあり——且つ、生来マトモに文章というものにあまり真剣に向き合ったことのない私の稚拙な文を見せることを先に謝らせて頂きたい。

そして反省はしない。それでは本題に入らせて頂く。

ロック・ミュージックにおける「保守」とは何か？保守とはまあ、ざっくりと

言ってしまうば伝統、歴史、慣習を重んじ、そして、変化を嫌う思想だ。

——変化を嫌う。と言うと少々意地悪な印象を与えるかもしれないが、人間とは元来変化を嫌うものだ。変化とはある側面の進歩ではあるが、またある別な側面には好ましくない影響を与えることも多い。黒人音楽から発展したロック・ミュージックはチャック・ベリーがダグ・ウオークであのリフを鳴らした1950年代から常に進化を

続けている。（ロック・ミュージックの起源という今も論争の種になる程、各人によって意見が異なるが、ここでは分かり易さを考慮し、こう記す。）1960年代にはビートルズが白人音楽の要素を取り入れたり、様々な実験を加えながら音楽の三要素と謳われるリズム・メロディ・ハーモニーに加え「音色」という今日まで続く重要な四要素目を付け加えた。

革命的投書欄

コードに等身大の歌詞が載る。俺の大好きなロックンロールだ。しかし、自爆の音楽は「保守的」だろうか？

音楽だけ聞いてしまえば、私のような音楽狂いの若年寄（或いはただの年寄共）はまあよくあるロックンロールだ。と思うだろう。しかし大抵の若者は半世紀以上前のロックンロールなんて音楽は知らない。何も飾らない、飽和の時代にやるからそれらは革新的であり、常に最先端なのだ。

「リバイバル」と言ってしまうば簡単に説明がつくが、俺はこの爆発的エネルギーをそんな横暴な横文字で一纏めにしてやりたくない。

俺たちはある種保守的なモチーフで革命を起こそうとしている。かつて、俺の敬愛する大日本愛国党の党首、赤尾敏が「日の丸の革命」と謳い連日数寄屋橋で街宣をしたように、伝統、文化への愛と革命を起こすという気持ちとは両立する。

今この文章を読んでいる君達はこの前代未聞の革命への第一参加者なのだ。スリーコードが、ロックンロールが、散々使い古されたこの言葉たちが今、若者にとつて厭な意味を含蓄せず最新のものとして蘇るんだ、こんな楽しいことがあるかい？

ロック・ミュージックにおける保守はいまや革新であり、進化を続けるという行為こそ歴史を鑑みれば保守的である。今後、ロック・ミュージックにおける「保守」とはどのように変化していくのか？その答えは、もしかしたら彼らが教えてくれるのかもしれない。

そんなにアングラ雑誌に精通しているわけではないが、なぜか筆を握ることになっている。これはウノツカに責任がある。アングラ雑誌論概観と銘打っている以上、なにかしら芯の喰ったものを書かないといけない気がする。しかしながらそんなに詳しいわけでもないの、今回に限りこの連載はアングラ雑誌101として、雑誌自体のイントロダクションを行う。

アングラ雑誌論概観A・イントロダクション

やわらかな像

これらの雑誌によって切り開かれた良心の傷こそが現代のインターネットのusageそのものに滔々と受け継がれているのであり、これらの雑誌にはローカルなインターネットー性があったと極論付けることも不可能ではないだろう。

この点においてアングラ雑誌論という表題には議論の価値があり、この地下会報の読者諸君にとつてもそれが存在根拠の一端に迫る議論であるというその限りにおいて非常に有用なものなのではないだろうか。

危ない一号

アングラ雑誌の王道。‘95年刊行。ご存知の読者も多いだろう。非常に有名な雑誌で詳細なwikiもあるため特筆することも特ないのだが、イントロとentitleしてしまつた手前少しだけ振り返っていい。アングラ雑誌の教科書があればまるまる一章作られるような雑誌であり、最初に触れるアングラ雑誌としては非常におすすめる。かの青山正明氏が編集長を務めており、創刊の際に彼が麻取法で逮捕されていたために面会室で編集会議を進めた点は非常にアツい。

「妄想にタブーなし」が本誌のテーマであり、反論はあろうもの、いわゆる鬼畜系がー字義通りアンダー・グラウンドデアはあるがー日の目を浴び出したのはこの雑誌のおかげで

あろう。スカトロからカルト、サイケ音楽、異端思想まで、さまざまな「鬼畜」を取り揃えた鬼畜のカタログのようなものである。15,000円くらいあれば中古で4巻全巻揃うので、買って読んで方が早いです。前身のよななものに青山氏が大学在学中刊行した「突然変異」があるが、実物を読んだことがないのでこれについては言及を避ける。

『別冊危ない一号』も非常に面白く、こちらも中古市場で手に入るので一読されたい。

JAM

伝説の自販機本、JAM。‘79年刊行。編集長は高杉弾氏が務める。氏のwikiに、「年間のうち3か月を南の島で過ごす」と書いてあって、とても良い。これになりたいね。

後継誌には「H E A V E N」があり、少々値は張るが一読の価値は大いにある。JAMには似たような名前の雑誌がそこそこ存在するが、本誌は「x m a g a z i n e j a m」である。ほとんど市場に顔を出すことはなく、たまりにサブカル系の古書店に入荷したりする。

本誌はサブカル系エロ本のパイオニアであり、以降のアングラ雑誌にもその影響が大いに波及している。漫画家蛭子能収氏の沈黙を破ったのがこの雑誌で、ガセネタのヴォーカルである山崎春美氏もその制作に参加している。ゴミ漁りやパンク、前衛芸術などのさまざまな

「アングラ」が詰まっている。臨済宗の思想に重きが置かれてる節があり、さらには自販機本であったり、それらの点でこの雑誌は他の雑誌と一線を画している（というかパイオニアの時点で他とは一線を画している）。この雑誌のばつと見の

印象は他に多くあるようなエロ本やグラビア本であるが、その実サブカルチャーとエロの統合（こう言ってよければ止揚である）をやつてのけた雑誌であり、伝説と呼ばれる所以も納得である。

夜想・yaso

この紹介を入れたのは完全に筆者の趣味である。ペよとる工房により、78年に創刊する。上述のような雑誌と同一視されがちであるが、本誌はそこでも異彩を放っている。というのも、語弊を恐れずにいえばこの雑誌は非常に「詩的」で「美」という感じであり、各号の

テーマも死体、奇形、ジュヴナイル、ヌーヴェル・ヴァーグ、戯曲などである。どちらかといえばカルチャー誌、という方が適切かもしれない。前述したような雑誌は一冊の中にさまざまなたピックが混在する一方で、

本誌は誌題に沿った一貫したテーマ性がある。夜想そのものは、98年に廃刊しているが、03年にステュディオ・パラボリカから後継誌のような形で『yasoo』として復刊している。復刻以降のyasooはゴスやドールカルチャー色の強いものとなつているように思える。

本誌は古書店や中古市場などでも安価で手に入るため、ぜひ手にとつていただきたい。あと名前がとても良い。これは、瀧口修造の詩に源泉があるのだとか。TH（トーキングヘッズ）叢書が好きな人には刺さるであろう。逆もまた然りである。

Provoke

この雑誌も、アングラ雑誌かどうかと言われてしまうというん、とゆう感じだが、前衛芸術や日本写真史を語る上で欠かせないような気もするので紹介する。

本誌は、68年に中平卓馬ら4人によって創刊され、2号からは森山大道も参加。「思想のための挑発的資料」を標榜しており、当時の政治状況を鑑みてもこの雑誌の存在意義は大きいものである。写真とその評論によって構成されている同人誌で3巻をして廃刊となっており、70年に総括集である『まずたしからしさの世界をすてる』が刊行されている。現在1冊30万円ほどで取引されたりしている。すごい。とはいえ、18年に国内で復刻版が出版されており、3巻揃8,000円ほどで購入できるので手が届かないわけではない（ちなみに、01年にドイツでも復刻版が出ているらしい）。ノイズが激しく不鮮明な写真たちには、自身の実存の根拠そのものを揺さぶるような「強さ」が激しさをいんてんしてあり、読者は、存在の重さに耐えることの限界を（否応なく）目の当たりにさせられる。

イントロダクションはこんな感じでどうだろうか。上述の雑誌の紹介は「アングラ雑誌」の断片に目を向けるにとどまるものであり、そのすべてのうちの本の一部である。今後はさらに多くの雑誌が出てくる予定である。言葉を重ねることとなるが、紙面の都合上かなり手短なイントロダクションとなつてしまい、各誌の概要をほんの少し撫でるだけになってしまった。読者諸君の寛容に身を委ねるに尽きる。連載になるらしいので、次号からはもう少し核心に迫る議論を行なっていきたい。

イントロダクションを含めた概論にて論じる内容が誤謬の、そしていずれ修正を要する可能性を免れぬこと、それについては今後の課題であり手を入れる所存である。堪忍願いたい。よろしく。

共闘団体からのアツピール

フーテン族

繁華街から背を向けて、歌詞はがらんどう、音色は濃厚。路地裏を和紙に落とした墨のようにじんわり照らす。

流行、時代を超えるニュー・ロックバンド フーテン族

2021年結成。白塗りのボーカル山下の編みいびつな世界観の歌詞に、完璧に棲み分けされたツインリードのギター、ブラックミュージック由来のリズム隊が特徴の見世物小屋的ロックサウンド五人組バンド。村八分やジャックスなど、

70年前後の日本ロック草創期に活動したバンドに重ねられる事が多く、楽曲の振り幅はロックンロールを基調にフオーク、ブルース、プログレの要素を取り入れている、まさに当時のニュー・ロックと括られたバンドと同じ方向性を感じる。この現代にSNS

を重視しない活動ながら、着々とファンを増やしてきており定期開催するワンマン公演は売り切れを出し続けている。

HABANA

2009年地元福岡で結成。ロック、トランス、ハードコアを基調にシタール、ディジュリドゥ、ジャンベ等民族楽器を用いた独自のダンスミュージックを展開。

メンバー全員、和笠を被り、円陣を組み演奏をする、度肝を抜く唯一無二の超個人的なビジュアル、ライブパフォーマンスが噂となり福岡アンダーグラウンドで話題を呼ぶ。踊り狂うオーディエンスの様も手伝ってか、ライブ終了後は

近隣CDショップに多数問い合わせがあるほどの中毒性と即効性を合わせもつHABANA。地元福岡を中心に各地のフェス、ライブ、ライブハウスでフロアを沸かしている。

ファンからの連帯アツピール

邂逅、目玉のヘンなやつら さつき

初めて自爆と出会ったのは、2024年の5月くらいでもない夜での周年イベントだった。

その少し前、現代人のようにTikTokを見てたら自爆が流れてきて衝撃を受けた。

「今こんなに尖ってるバンドがいるんだ」と。初めてガンジーにあつたとき、『時計じかけのオレンジ』のTシャツを着ていた。あれはさすがに尖りすぎて

その後ライブをFREE A S BIRD（永山のライブハウス）で見たとき、こんなに踊れる、暴れられるバンドがいるのだとただただ興奮した。

さらに初台でライブを見た時には、爪が変なところで縦に割れた。そして12月のワンマン、生ぬるいことなんかなるなよと調子に乗って足を運んだが、そこには明らかに進化した自爆がいた。これからの彼らの活躍が楽しみだ。リスカする女子

そして、私を救ってくれる存在であつて欲しい。これからどれだけ死にたい夜が来ても、どれだけバイトが辛くても、自爆がいることで

救われる私がいる。彼らはきつと救っているつもりなんじゃないだろう。それでも、確かに救われる人がいる。そんな人たちのもとへ彼らの音楽が届いて欲しい。

ワカテ先駆論批判 堀内遥

年齢とは、便利な指標であり、時に人間や表現の本質を理解した気にさせる。

自爆のメンバーの平均年齢は20代半ばである。しかし、私は彼らを「若手のバンド」と一括りにされるのは、どうも釈然としない。

それは、若手と呼ばれることによって彼らの表現の核心から目を逸らしてしまうためだと思える。それこそ思考の怠慢である。

その違和感を、言葉ではなく音で確かめたくなったため、2025年12月17日初めて彼らのライブに足を運んだ。

「自爆宣言」の日であつた。会場では殴りつけるような音が身体に響き、群衆の息づかいや振動を肌で感じた。それらが、自然と周囲と一体になる感覚を生んでいたのだ。

自爆がかき鳴らす音が胸に重くのしかかり、音で鼓膜と脳が揺さぶられる、私は思わず息をのんだ。

その瞬間、確信した。この音楽は、年齢や肩書きではなく、自爆自身だからこそ出せる音なのだ。その光景に、言葉にならない強い感動を覚えた。

自爆を年齢という色眼鏡で見るとではなく、彼らの奏でる剥き出しの音楽と対峙する姿勢を示すこと。それこそが、我々が自爆にできる精一杯の敬意ではないだろうか。

重要論文シリーズ 戦争宣言

ブルジョワ諸君！

我々は君たちを世界中で革命戦争の場に叩き込んで一掃するために、ここに公然と宣言を布告するものである。

ブルジョワ諸君！君たちがたとえ、アメリカ軍、NATO軍、安保軍、ベトナム連合軍など等全世界の警察を総動員しようとも、君たちが骨抜きに

変質させたソ連、ワルシャワ軍までもを動員したとしても、我々は全世界のプロレタリア人民の力を世界で

世界革命戦線の下に結集し、必ずや叩きのめしてしまう事を通告する

君たちの歴史的罪状は、もう分かりすぎている。君達の歴史は血塗られた歴史である。

第一次、第二次世界大戦、君たち同士の仲間をだまして動員し、互いに殺し合わせ、あげくのはてにはがっぽりと儲けているのだ。

君たちは植民地を略奪するために我々の仲間を殺した。仲間をそのかし、植民地を略奪したら分け前をやる

と言って、後進国の仲間を、君たちがそのかした仲間を使つて殺させたのだ。

それだけではない。そうやって略奪した植民地を君達同士で奪い合う強盗戦争にも、同じように仲間をそのかして殺し合わせた。

我が日本のブルジョワ諸君！君たちにもウソとは言わせない。「富国強兵」のスローガンのもと、日清、日露

第一次、第二次の強盗戦争をやったではないか

我々はもう、そののかされ、だまされたりはしない。否、

そののかされ、だまされるだけではない。

我々は過去の恨みを持って呪うと共に、またまた君たちのやろうとする事に対して、今度は我々の側には用意がある。

君達にベトナムの仲間を好き勝手に殺す権利があるのならば我々にも君達を好き勝手に殺す権利がある。

君たちにブラック・パンサーの同志を殺し、ゲットーを戦車で押しつぶす権利があるのなら、我々にも、ニクソン、佐藤、キッシンジャー、ド・ゴールを殺し、

ペンタゴン、防衛庁、警視庁、君達の家々を爆弾で爆破する権利がある

君たちに、沖縄の同志を銃剣で突き刺す権利があるのなら、我々にも君達を銃剣で突き刺す権利がある。君達が朝鮮で再び戦争をやるために、自衛隊を増やし、フォークス・レチナや三

矢作戦をやり、朴独裁3選のためにそれに反対する任君を逮捕し、死刑にする権利があるのならば、我々にも赤軍を建軍し、

革命戦線を作り、君たちを逮捕し、死刑にする権利がある。

アメリカのブルジョワ諸君！君たちは第二次世界大戦後、朝鮮で、コンゴで、ベトナムで、普段に仲間を殺し続けてきた。

日本のブルジョワ諸君！君達は、自衛隊、機動隊を増やし、今ベトナムに協力し、将来朝鮮に派兵しようとしてい

る。

西ドイツのブルジョワ諸君！国防軍を強化しフランスをけん制し、チェコや東欧や中近東に目を光らせて何をしようというのだ

ブルジョワ諸君！いつまでも君達の思い通りになると思ったら大間違いだ我々は過去、封建領主のもとでは家畜のように領土のおりの中に縛り付けられた農奴であつた。

君たちには、この身分の枠を破り、我々を君たちの自由にするために、「自由、平等、博愛」のスローガンの下、領主達と戦つた。だが今や、我々を君たちの好き勝手にされることを公然と拒否する事を宣言する。

君達の時代は終わりなのだ

我々は地球上から階級戦争を無くすための最後の戦争のために、即ち世界革命戦争の勝利のために、最後まで戦い抜く我々は、自衛隊、機動隊、アメリカ軍諸君に公然と銃を向ける。

君たちは殺されるのがイヤなら、その銃を後ろに向けたまえ！君たちをそのかし、操っているブルジョワジーに向けて

我々、世界のプロレタリアートの解放の事業を邪魔するやつは、だれでも、容赦なく革命戦争の只中で抹殺するだろう

万国のプロレタリアートよ団結せよ！世界革命戦争宣言をここに発する

革命的廣告 大募集 ↓ zibaku.self@gmail.com

当面する闘争 スケジュール

2・11 松戸闘争 二月十一日 開場十八時半／開始十八時

場所 新松戸 FIRE BIRD 共闘団体 フーテン族 ヤングタイガー 2026

日時 二月二十一日 開場十二時半／開始十三時 場所 心斎橋 SUN HALL 2・23 福岡闘争

日時 二月二十三日 開場十七時半／開始十八時 場所 福岡 KIE TH FLACK 共闘団体 HABANA

3・8 仙台闘争 三月八日 開場十七時半／開始十八時

場所 仙台 FLYING SON 共闘団体 佐藤凌駕と大日本帝国ズ 3・27 心斎橋闘争

日時 三月二十七日 開場十七時半／開始十八時 場所 心斎橋 LIVE HOUSE PANGAEA 3・28 名古屋闘争

日時 三月二十八日 開場十七時半／開始十八時 場所 名古屋 HUCK FINN